

## 2021年投稿募集のテーマ STAYHOMEで思い出迎ろう?

- 第1回 受験の思い出 2/15(月)締切、2/21掲載 第2回 社会人1年生の思い出 4/12締切、4/18掲載  
 第3回 時計は好きですか? 6/14締切、6/20掲載 第4回 あなたの故郷は? 8/9締切、8/15掲載  
 第5回 運動会の思い出 10/11締切、10/17掲載 第6回 宝くじに当たったら? 12/13締切、12/19掲載  
 FAX043-484-2149 Email [yomiuri-is@fine.ocn.ne.jp](mailto:yomiuri-is@fine.ocn.ne.jp) 郵送〒285-0025佐倉市鍋木町 1205-2YC 佐倉

# ドラゴンの階段 第21回

《エッセイ版》

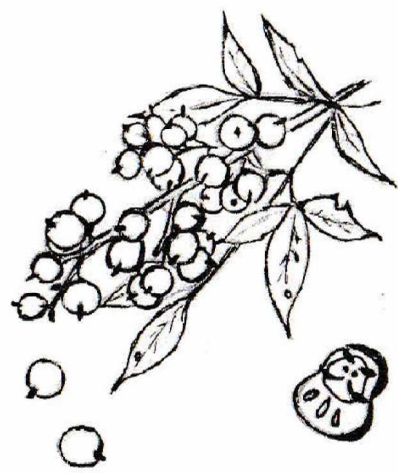
佐藤 洋祐

「心技体の磨き方⑦」カタチへのこだわりの先にあるもの

皆様、こんにちは!今年2021年が皆様にとってよいお年となりますように♡。さて、数回にわたる「心技体を磨く」についてのお話し、今回の話題は、私の場合は音楽道においてですが、これまでの道程における志(こころざし)の変化について、です。ちょっとり恥ずかしい気持ちを横において筆をとらせていただきますね。特定の師の下に音楽、サクソスを学ぶことがなかった私にとって、最初のうちはレコードやCD、ラジオなどから流れてくる偉大な先輩の録音を聴き、覚え、彼らの出す音とそっくりに吹くことだけが課題でした。しかもジャズという音楽のルールでは、それを場に應じ即興で発想して演奏しなければいけませんから(この「ルール」というものについてはまた後で少し触れますが)、

音楽書から和声理論などの楽典を学んだり、先人が何世代もかけて練り上げてこられた音階練習などのメソッドに時間を費やすことも必要でした。音の響きそのものを磨くために発音の原理を研究したり、道具に工夫を重ねたり・・・。これらは、芸の「カタチ」を磨く作業です。「カタチ」にこだわり、時間をかけましたし、今でもその作業は続けていますが、どこかの時点を境に、演奏の場においてこれらのこだわりをすっかり忘れてしまうようになりました。いつからか、私の「カタチ」ではなく、私の演奏を聴く聴き手の方の心身にとどのような変化が起きているのか、演奏中の注意はほとんどそこに割かれるようになりました。音を出すとき、私はそこに様々な「気持ち」を描いています。温かい感じ、くすんだ感じ、きらびやかな、さっぱりした、けだるい、澁澁とした、純朴な、泣きそうなの、怒りに満ちた、ひょうきんな、透き通った水みみたいな・・・。それらの表現に反応し、お客様の心身が動き、そこにまた演奏者も応え、新たな

音が紡ぎ出されます。



例えば私たちが「ありがとう」という言葉を誰かに伝える時、受け手の反応は様々でしょう。一瞬の表情からその心にあかりが灯ったことが感じ取れたり、そこから更に温かい「こころぞ」とういたしまして」が返されたり。かたや無反応なこともありませよね。いろいろですが、私も演奏の場において同様に頭われる気持ちのやりとりの温かさ、そしてそうやって音楽、音楽の場が予測不能なほど多彩に花開いていくことの魅力を感じ、音楽を通して心身の変化の感受能力を磨いていきたい、と思うようになりました。それに伴い、技の鍛錬の内容も全く違うものになりました。芸で身を立てるには欠かせぬであろう「カタチ」以上に、気持ち先だって演奏し続けてきた時間。師に就くことが無かった故もあり、己の感情が先走った稚拙な表現だったでしょうし、今でも

そういう面があるかも知れません。それでも自分の気持ちを否定したり、何かの力によってそれを押し込められたり修正されずに出てくるのが出来たのは、自分で考え工夫して音楽を学んできたおかげかも知れません。気持ち、感性を「カタチ」の蓋で覆い尽くさなかったことは、今の私なりの、心の研鑽に打ち込む幸せに結びついています。「カタチ」にこだわるばかりだった頃には己の心を波立たせるばかりだった聴き手の方からのご批判なども、今となっては有難いばかり、その方の感性をお聞かせいただき、己の表現を見つめ直すチャンス。「心技体」が、体↓技↓心の順に研鑽の対象となることを実感してきたこれまでの音楽道でした。「音楽道」とするからには、それはもう「たしなみ」としての音楽ではなく、私の生き方です。「たしなみ」であれば、ルールの中で思い切り楽しめばよいですが、生き方ですから、日々の「ありがとう」にまつわる気持ちのやりとり同様、ルールはありません。いつ、どこから、何がどう飛び出してくるかわからない。その時にも、音楽そして音楽によって導かれる意志と振る舞いによって、自分なりの決断と行動をしていきたいと思えます。もちろん、それによって皆様の心へ何か温かい変化が起きることを望みながら。

佐藤 洋祐(サトウ ヨウスケ)  
 ジャズミュージシャン。サクソス奏者としてグラミー賞を2度受賞、ノミネートは4度。海外での活躍で世界的に高い評価を得た。その後2015年末千葉県に住まいを移し現在に至る。2019年よりシンガーとしても活動を開始。

挿絵 TAKAKO